

1 学校関係者評議委員

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ・大西 政年 氏（学校運営協議会会長） | ・山下 和之 氏（学校運営協議会副会長） |
| ・小野 英昭 氏（学校運営協議会副会長） | ・幕内 晶彦 氏（学校運営協議会副会長） |
| ・石村 耕一 氏（学校運営協議会副会長） | ・中野 久 氏（学校運営協議会委員） |
| ・黒河 幸彦 氏（学校運営協議会委員） | ・白石 晃典 氏（学校運営協議会委員） |
| ・源代しのぶ 氏（学校運営協議会委員） | ・竹林 貴美 氏（学校運営協議会委員） |
| ・高松由香里 氏（学校運営協議会委員） | ・井川 昭二 氏（学校運営協議会委員） |

2 学校関係者評価結果

令和2年2月17日実施

(1) 学校からの報告

今年度は「2 南中学校教育活動に満足している（南中に入学させてよかった）」、「9 学校からの情報は適切に提供されている」、「10 学校行事は、適切に行われている」などで教職員・保護者・生徒のいずれからも多数の高評価を得た。これらは昨年度に引き続いての評価でもある。

しかし、「生徒や保護者の相談や悩み事について(十分に)対応している」については、評価は低くないものの、取組に対する意識に教職員が考えているほど生徒や保護者は満足していない。日々の生徒との関わりを更に高めていきたい。また、日頃から保護者との連携に力を入れ、どんな些細なことでも伝え合っていくことで信頼関係を深め、子どもにとって有意義な教育活動を展開していきたい。

「6 進路選択のための情報提供や個別の指導が適切に行われている」については、将来の職業、中学校卒業後の進路（高等学校の情報）について具体的な資料を基に学習する機会を1年時から計画的に進めている。また、ユニバーサルデザインや合理的配慮の考えを根底に置き、毎時間、必ず授業の振り返り・まとめを行うようにするとともに、放課後等も使い基礎的・基本的な事項を身に付ける場を設けることも検討していく。その他、月1回のプログラム委員会を有効活用し、学級活動を充実させ、集団としての成長を図っていききたい。

「16 家庭で毎日、計画的に学習に取り組んでいる」では、生徒の評価に比べて、教職員・保護者は昨年度に続いて2ポイント台である。家庭学習の習慣を確立させ、既習事項の復習につながるよう計画的に宿題を出していく。そして、来年度より全学年家庭連絡カードを利用して、漢字や英単語の練習、生活日記（大樹）の記入など毎日行うべきものについて、保護者と協力しながら基礎学力の定着、表現力向上につなげていく。

以上の反省を踏まえ「相談しやすく・個に応じた指導」を大切に、「家庭学習の充実」を図る教育活動を推進していこうと考えている。今年度からスタートしたコミュニティ・スクールを軸に家庭や地域と連携・協働し、基本的生活習慣の確立や規範意識の向上を図るとともに、「学力向上」、「規範意識の高揚」、「道德教育の充実」を柱とした、魅力ある学校づくりに励んでいきたい。

(2) 質疑・応答・感想

ア 「1 学校経営方針を理解している」において、教職員が3.7点であるということは、中には理解が不十分な先生がいるということだろうか？ やはり、先生方は全員が十分に運営方針を理解して教育活動に当たるべきだと思うので、そうではないとしたら改善していかなければならないのではないか。

→ 教職員は本来は4.0でないといけない。学校経営方針を昨年度改めて、2年目になるが、今年度は昨年度より浸透していると感じる。教職員が一丸となって同じベクトルのもとで生徒とともに成長していくことのできる教育活動を推進していく。

イ・「11 校区の教育的環境(人材や公的機関)を生かした教育活動が行われている。」の教職員の評価が低いのはどうしてか？

→ 学校行事などの教育活動全般に、もっと地域の方と協力してより内容の濃いものにしていけば良かったという反省が多く、教職員の評価が低かったと思う。特に今年度は防災体験学習を実施することができなかったのも影響した。消防署との連携不足で実施日を確保することができなかったというのも実施できなかった理由の一つである。来年度は全学年で実施していける日程に変更し7月に行う予定である。その際は、地域・保護者の方にもご協力いただきたい。

・消防署に頼むだけが防災体験学習の実施ではないと思うので、様々な形で行事を充実させるよう地域・学校が連携して取り組んでいきたいと思います。

ウ・「16 生徒は、家庭で毎日、計画的に学習に取り組んでいる。」について、宿題の達成率が低いのは、基礎学力を身に付けてほしいという教師の思いが生徒には十分に伝わっていないことも考えられるが、学校はどのように考えているか。

→ 宿題の出し方を工夫するという説明があったかと思うが、身に付けてほしい内容を考えて宿題を出していく。たくさんの教科で一度にたくさん出すとこなすことに精一杯になり、本来の目的とは異なった取組となってしまう。そこで、個に応じた宿題の内容を変えることも必要となってくる。ただ、なぜ自分だけ違う宿題なのかと最初は抵抗を感じる生徒も出てくるので、本人と話をし、保護者の了解も得て、本人が納得した上で最適な課題を出すことが今後必要となってくる。また、家庭学習の手引きを作成しているが、もう一度小学校・中学校で見直す。授業の中で振り返りをいくら行っても、繰り返し使う練習をしていかないとなかなか学力は定着しないので宿題は出さなければならない。

・本当は一人一人の自覚の問題かなとも思いますが、学校と家庭が連携して学習を進めていけたらと思う。

→ 学校として、学力を付けるということには大きな責任がある。習熟度が不十分であると感じた時、担当教師がてこ入れをしていく必要がある。徹底した指導を行うことで徐々に改善されていき、結果として目に見える形で現れてくることにもなる。少人数指導を行うなど、個別学習を重視した学習もどんどん取り入れていく必要がある。教職員数にゆとりがあるわけではないので全てにおいて人員的に十分な指導ができるわけではないが、教師の指導力向上・授業改善を行っていきながら、学校としてできることを精一杯していきたい。コミュニティ・スクールの取組の一つとして、小・中学校9年間トータルで力を付けていくことも考えていかなければいけない。一人一人の様々な認知力などの見極めを小学校・中学校の教師、家庭で行っていくことが今後必要になってくる。それが、適切な指導につながっていくと信じている。

全体的に高い評価であった。コミュニティ・スクールとして地域・家庭・学校が連携して教育活動に取り組もうとしていることが徐々に現れてきている成果であると思う。地域に開かれた、地域とともにある南中学校となるよう、来年度は更に良いものをめざし、教職員一丸となって取り組んで参りたい。